

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218  
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)6月5日 No. 1126

## 目次

1998年のCIS経済.....	1
統計速報 日口貿易の推移.....	9
ロシア連邦政府指導部一覧(1999年6月1日現在).....	12
CIS諸国通貨の最新為替レート.....	13

## 1998年のCIS経済

本号ではCIS統計委員会発行の『統計通報』(1999, No.2)の数字にもとづき、1998年のCIS諸国の経済実績データならびにEBRDによる1999年のCIS経済の見通しを紹介する。

**ロシア経済危機の影響** 1998年上半期はほとんどの加盟国で主要経済指標が前年同期実績を上回っていた。1992～1995年と連続してGDPが大幅に減少したものの、1996年にまず中央アジア諸国(タジキスタンを除く)の経済がプラス成長に転じ、1997年にはウクライナを除くすべてのCIS諸国の経済がプラス成長を記録、1998年に入ると、ウクライナ経済もプラスに転化し、今後の各国経済の回復が期待された。しかし、石油などの燃料・資源価格の下落、さらに8月に起きたロシア経済危機の影響で、CIS全体のGDPは前年比3.5%減、鉱工業生産は同2.5%減と低下し、ロシアの国内需要の減退が、CIS各国の対外貿易相手国として大きなシェアを占めるロシアへの輸出にも悪影響を及ぼした。これらの要因から、1998年のCIS諸国の経済水準は、市場経済体制に移行する前の1989年と比べて、ロシアの55%を含め、30～60%にとどまっている。

**各国の実績** 各国別の数字をみるとかなりのばらつきがある。GDPに関しては、アゼルバイジャンの前年比10%プラス、ベラルーシの同8%プラス(ただし、同国の公式統計は大幅に割り引いて評価するのが常識となっている)、アルメニア同7.2%プラスから、モルドバの同8.6%マイナ